

はぐくみプロジェクト 通信

Vol. 6

2024.11 発行

＼あたたかなサポートをありがとうございます！

皆さまからのあたたかなサポートにより、子どもたちが笑顔でいられる居場所がひろがっています。継続的なサポートに心より感謝申し上げます。

(2024年8月1日～2024年9月30日に皆様からいただいたご支援をご紹介します。)



現金でのサポート

※許可をいただいている皆様のお名前を掲載しています。(順不同)

石部 晋作さま／内山 雅史さま／金子 喜一さま／滋賀県勤労者住宅生活協同組合さま
滋賀県レイカディア大学草津キャンパス第44期生・第45期生大学祭実行委員会さま／ツカサ産業(株)さま
東海高熱工業(株)滋賀事業所さま／森國 光晴さま／はぐプロTシャツ購入8件／匿名8件

現金寄付589,100円

物品でのサポート

RICE IS COMEDY®/ONE SLASHさま(精米)／アイリスオーヤマ(株)さま(食品・飲料)／旭食品(株)さま(食品・飲料)
加藤産業(株)さま(食品・飲料)／(株)サンコウさま(スプーン)／(株)平和堂さま(精米)／生活協同組合コープしがさま(食品・オムツほか)
フードバンク滋賀さま(お菓子)／フジノ食品(株)さま(食品・飲料)／レク滋賀農業協同組合さま(食品)／匿名4件

地域で子どもたちを見守ってくださっている子ども食堂運営者さんからの

ありがとうメッセージを一部お届けします。



たくさんのお米をご寄付いただきありがとうございました。毎週の活動の中でおにぎりを提供しているのですが、毎回あっという間になくなってしまいます。学校でたくさん頑張って帰ってきた育ち盛りの子どもたちの元気の源になっています。子どもたちに温かい想いを寄せてくださる人たちがいること、感謝の気持ちでいっぱいです。(まねきねこ食堂／守山市)



今年の夏休みは計8回オープンしました。暑さの中でも、屋外で思い切り遊べる環境を作ろうと、大きな屋根タープ、特設プール、スプリンクラー、大型扇風機等で対策をし、また、子育て家庭がお昼ご飯の心配をせずに子どもたちを送り出せるよう、無料の食事提供をしました。涼しく食べられるように、主にはそうめんやかき氷でした。栄養を取れるように、地域の方に協力いただいて夏野菜たっぷりのおかずも出すことができました。おかげさまで、子どもたちは「今しかない夏休み」を満喫することができました。(冒険遊び場あじっこパーク／米原市)

子ども食堂で使用するお米がちょうどきれかけて購入困難な時に、ちょうど良いタイミングで頂戴できたのでとても助かりました。主食は欠かせません。子どもを真ん中にした地域の交流は、孤立・孤独対策に必要です。「子ども」と「食事」のおかげでつながりが増えました。老若男女が屋根の下で食事をしている…奇跡のような光景です。たくさんの食材をありがとうございました。(こどもかふえ／大津市)



いつもサポートいただきありがとうございます。参加されたお母さんからは、「小学1年生の子どもが完食！家では野菜をあまり食べないのにびっくりです!」とお声や、お子さんも「ご飯に豚カツが美味しい。人参のおかずが大好き。かぼちゃが美味しい」と言いながら食べていました。また、ひとり親家庭を対象にフードパントリーも実施しており、お米を小分けしてお渡ししました。「お米も高くて手に入らない中だったので、ありがたい」とのお声もあり、フードパントリーに参加できなかった世帯へ個別訪問でお渡しすると、「嬉しい～」と飛び上がるほどに喜ばれた方もおられました。お菓子もたくさん頂けて子どもが喜んでいました。(のぞみ子ども食堂／彦根市)



県内の地域ネットワーク団体のご紹介

子ども食堂ネットワークこうか (2019.5月設立)

「子ども食堂ネットワークこうか(以下、NWこうか)」は、子ども食堂を通じて、子どもや大人、たくさんの方がつながり、安心してすごせる地域を目指して設立した甲賀市内の子ども食堂実践者・関係者からなる地域ネットワーク団体です。

NWこうかでは、隔月1回、役員会・代表者会議を開催し、情報交換を行いながら、子ども食堂同士が交流し、助け合いができる関係づくりや地域の応援団づくり、子ども食堂のことを地域の人に知ってもらうための啓発PR活動などを実践されています。また、LINEグループなども活用しながら、タイムリーに活動の様子を共有したり、情報交換・意見交換をされています。



↑本年6/2(日)には、アル・プラザ水口にて子ども食堂ネットワークこうか主催の「子ども食堂フェスタ」が開催されました。

当日は、各子ども食堂による遊び・体験ブースや広報・啓発ブースが出展され、子ども食堂について多くの方に知っていただく機会となりました。アル・プラザ水口店様をはじめ、地元企業・団体・個人の皆様が多数ご協力くださり、500名近くの参加者となりました。

代表者会議の様子

みんなの知恵やノウハウを活かして作戦会議!



ネットワークとして動くことで、地域の企業・団体からの理解や協力が得られやすくなったとのことです。地域みんなで関わり、考えていくため、地元企業や団体への訪問も活発にされています。企業・団体・個人の皆さんからの更なる応援を大募集中です!



【ネットワーク事務局】
甲賀市社会福祉協議会 / TEL: 0748-86-6035

ひのみんなの食堂ネットワーク (2024.4月設立)

「ひのみんなの食堂」は現在7カ所あります。それぞれに特色がありますが、子どもたちにみんなで食べる楽しさを知ってもらい、笑顔になれるように、そして、地域食堂として、子どもに限らず誰もが気軽に来れるように居場所を提供されています。また、月1回、ネットワーク主体で関係機関も含めての情報交換を開催。食堂間での食材等のやりとりや、地域の居場所として地域の皆さんに知っていただくためのイベントの開催、応援団やつながりをひろげるために、さまざまな企業・団体との連携や取組みを実践されています。

来る12/1(日)には、日野公民館にて「インクルーシブ食堂クリスマス会」を開催される予定です。開催に向けて、企業・団体・個人の皆様からの応援を大募集中です!



↑昨年度開催の様子

「ひのみんなの食堂MAP」
はこちらから



公式LINEはこちらから



本年度4月には、日野町にある松尾公園にて、「インクルーシブ食堂春パークまつり」が開催されました。当日は、日野町内の子ども食堂による遊び・体験ブースや、カレー・おこわなどの提供、図書館による大型絵本読み聞かせや相続相談ブース、里親支援についての啓発ブースなど、多種多様な18ブースが出展。

「子ども食堂」を窓口には様々な団体に関わり、つながることで色々な取り組みが広がっています。参加者からは、「子ども食堂って私たちの住んでいる地域にもあるんや!」「行っていいんやね!」という方もいらっしゃり、たくさんの方に知っていただく良い機会となりました。

【ネットワーク事務局】
代表 奥野 / TEL: 080-3136-2967

遊ぶ・学べる

淡海子ども食堂ってなあに？

『“ごはん”を通じて地域ぐるみで子どもを見守り育てていく、垣根のない居場所』です♪

食堂をきっかけにさまざまな世代がつながり、困っている人を放っておかない、あたたかいまなざしがあふれる地域づくりをめざしています。子どもたちが安心できる人たちと出会い、みんなで囲むあたたかいごはんや勉強・遊びを通して、地域のなかで大事にされて「ほっ」と安心できる食堂を、皆さんの思いと工夫でつくっています♪

遊ぶ・学べる

淡海子ども食堂で大事にしていること

- ① 子ども一人ひとりを大事にする場所として
- ② 子どもが遊びや学びを通して育まれる場をめざして
- ③ 子どもを見守り育てる地域の仲間づくり
- ④ さびしさやしんどさを抱える子どもも来られるように

すべての子どもが自分で行ける距離にある
=小学校区に1つは子ども食堂がある状態を目指しています♪



活動レポート

※7/30開催※

子ども食堂交流会を開催しました！



当日は、子ども食堂実施団体24名(17団体)、行政・市町社協から7名計31名の皆さんが参加くださいました。今回の交流会では、①これからのことについて②連携、関わり方について③遊び、メニューについて④食材、資金確保についての4つの話題に分かれてグループごとに交流いただきました。

参加者の皆さんからの声！

「資金や食材調達のための具体的な事例が参考になった。」

「助成金には、毎年何かしらに申請している。子ども食堂同士で最新情報を共有している。今後も申請予定だが、毎回報告が大変で時間がかかっている。」

「長く続けるためには、スタッフみんなが同じ方向を向いて活動すること、運営するスタッフが楽しんで活動することが大事。」

「自分自身が活動できなくなってしまった時のために、地域の若者、高齢者も運営スタッフに呼び込んでいこうとネットワークを広げている。若者のなかには、漠然と何か地域のために活動したかったと話す子もいて、ハトタッチすることになっても安心。」

「昨年度、滋賀県の取り組みである“滋賀の教師塾”に参加。学生さんと繋がることで、普段の活動へのボランティア参加や、所属大学ともつながりが出来た。」

「行政・社協・企業の方と話ができてよかった。」

※9/10開催※

アレルギー研修会

を開催しました！

子ども食堂スマイルシード代表であり、滋賀県立小児保健医療センター看護師、アレルギー疾患療育指導士でもある笹畑 美佐子さんを講師としてお招きし、アレルギーの対応についてやアレルギー-症状が発生した場合のエピペンの使用方法等について実践を交えてご講義いただきました。



当日は、子ども食堂実施団体15名(10団体)、市社協1名が参加くださいました。講師の笹畑さんより、開催後の振り返りにて「子ども達の食物アレルギーは特別な病気ではなくなりつつある中、エピペン講習を積極的に受けられる姿をみて関心の高さが伺えました。子ども食堂のリーダーさんが知識とスキルを覚えて頂きメンバーに伝えて広げれば、全国でも珍しい食物アレルギー-児受け入れ県になるのでは」とお話しくださいました。

参加者の皆さんからの声！

「2人に1人がアレルギーがあるといわれる時代だからこそ今後もしっかり学んで対応していきたい」

「小麦粉の飛び散る範囲など、知らなかった部分での危険性を学べた」

「スタッフ全員で学んで、同じ目線で対応していきたい」

「緊急時の対応やエピペンの使用方法など正しく知れて良かった」

「市販の商品などを活用して、今後対応できたらと思っている」



【発行・お問合せ】

滋賀の縁創造実践センター- 滋賀県社会福祉協議会

TEL 077-567-3924 FAX 077-567-5160 / E-mail shiga-hug@shigashakyo.jp

※ご意見や感想、取り上げてほしいコンテンツなどございましたらぜひ上記までお問合せください。

はくプロHPはこちらから

